

〈要約〉

◆初職の重要性を考える

An Examination of the Importance of the First Job

田 邊 友 昭
Tomoaki Tanabe

日本企業は、新卒一括採用を採用活動の中心においている。これは、世界では珍しいシステムである。しかし、だからこそ、いろいろなチャンスがある。その反面、企業選択が難しいというのが日本の大学生の本音である。

キャリアカウンセリングにおいても多くの場合、「自分にふさわしい職業を選択すること」観点から、学生の「好き」「興味がある」などの観点から仕事選択を進めるケースが多いが、その「好き」「興味がある」というのがない学生は就職に苦戦している。

私の社会人23年の社会人経験や10000人以上の人たちと合う中では、それほど明確な「好き」「興味がある」仕事をしている人は少ない。

日経新聞の”私の履歴書”に出てくる大手企業の社長も、かなり人たちが、大学教授や保護者の選択の元で就職していることが多い。

そのため、まずは新卒で就職することの重要性を再確認したい。

その理由は、3つあると思われる。

まずは、日本企業の研修体制。日本企業は、新入社員に対して研修をかなり行っている。社内の研修の中でも、新入社員研修をしている企業は、89%にもなっている。(産労総合研究所)

二つ目に、日本企業のポテンシャル採用。

最後に、同期などの仲間作りが容易。

その中で、将来、自分の道を見つけていくことが可能であるし、現状、40代以上の社会人でも将来の道筋が経っていない人もいるので、それほどこだわらなくてもいいのかもしれない。

アメリカでも、クランボルツ氏の行った米国の一般社会人対象の調査によれば、18歳のときに考えていた職業に就いている人は、全体の約2%にすぎなかったといわれています。

就職に関しては、まずは覚悟を決めて、新入社員研修(マナー研修、コミュニケーション研修など)を行っている企業に入る中で、仕事をする自分で自分なりの自信を身に付けていくことが大切のように思います。